

アメリカの今と私たち

科目コード	2696614
学習センター	島根学習センター
学習センターコード	32A
クラスコード	K
科目名	アメリカの今と私たち
科目区分	専門科目：社会と産業
ナンバリング	320
定員	30名
担当講師	オバタ ユリ 小畑 由里 (元インディアナ大学准教授／横浜国立大学 特任非常勤講師)
日程 実施時間	2026年11月21日(土)第1時限 09:50～11:20 2026年11月21日(土)第2時限 11:30～13:00 2026年11月21日(土)第3時限 14:00～15:30 2026年11月21日(土)第4時限 15:40～17:10 2026年11月22日(日)第1時限 09:50～11:20 2026年11月22日(日)第2時限 11:30～13:00 2026年11月22日(日)第3時限 14:00～15:30 2026年11月22日(日)第4時限 15:40～16:25 2026年11月22日(日)試験・レポート等 16:25～ 17:10
実施会場	この授業は、【島根学習センター】で行いま す。

授業概要

【授業内容】

今の日本には情報が溢れ、そこに住む私たちは自分が物事を知っていると思うかもしれませんが。しかし実際には何を知っているのでしょうか？間違った情報や避けがたいバイアス、固定観念などの弊害がある中、私たちはどのようにアメリカを理解しているのでしょうか？この授業ではメディア、コミュニケーション、文化などの理論や実例を交えながら『アメリカの今』を分析し、異なる価値観や信条が絡み合う現状を多様な視点から読み解きます。そして異文化交流が進む私たちの日常で、どのように他者への理解や共生に取り組むかを思索します。

【到達目標】

この授業には多面的な目標があります。まず、アメリカ社会や文化についての知見を深めます。より大きな目標は、自分の考え方に潜む偏りや弱みを認識できるようになることです。これにより、他者についての情報や知識を無批判に受け入れたり感情論に流されることなく、自分の意見を論理的、かつ積極的に組み立てることを目指します。

【授業テーマ】

- 第1回アメリカについての私たち一人一人の経験と知識を考察する
- 第2回何の情報が、どこから、誰に、どんな目的で、どの様に伝わるのか
- 第3回アメリカの今について、理解すべき概念と用語
- 第4回具体例に基づく社会問題の考察と分析(1)
- 第5回日米の社会的・文化的差異と私たちの持つバイアスや固定観念
- 第6回具体例に基づく社会問題の考察と分析(2)
- 第7回中間選挙と今のアメリカが向かう方向を考える
- 第8回アメリカを例にして、他者を理解するとはどういうことなのか

【学生へのメッセージ】

この授業では、個人やグループの意見交換を通して多角的・客観的な洞察を進めていきます。皆さんの個人的な経験や考えが根幹となりますので、自分が何をどう、そしてなぜそう考えるのかを意識してみましょう。

【受講前の準備学習等】

まず自分や家族、知人などの知識や体験を振り返り、自分が持つアメリカのイメージを考えてください。次に新聞やテレビ、インターネット上のアメリカに関する報道を幾つか選び、それらがどの媒体でいつ発信されたのかを調べ、その内容について自分の意見をまとめてください。事前にキャンパスメールへ授業内で使うスライド、用語集などの資料を送付しますので、目を通しておいてください。

【成績評価の方法】

成績評価は、授業内で実施する実習課題への主体的な取り組みとレポートの評点により行います。

【受講者が当日用意するもの】

筆記用具。事前配布した資料を見たうえで、参考になると思われるそのほかの書物、ニュースの切り抜きなどを持っている方は自由に持参してください。これらの準備が意見交換やレポートの作成に役立ちます。また、事前配布した資料をプリントアウトして持参すると、授業内でメモを取るのに便利です。

【教科書】

教科書は使用しません。

【参考書】

【その他(特記事項)】

この授業では、講義や意見交換を通して、批判的思考法(クリティカル・シンキング)の実践を行います。『批判的』とは相手を非難・否定することではなく、提起された問題の前提や根拠に疑問を投げかけ、多角的な視点を取り込みながら物事の本質を探ることです。それを学び体験する授業ですから、批判的思考法に関する事前の知識や経験は必要ありません。また、意見発表が苦手な方に発言を強制することはありません。ですので、どなたも臆せずに参加してください。最終試験では、送付資料や外部資料、インターネットの情報を自由に使ってもらって構いませんが、出典元を明確に提示することが求められます。出典元の提示方法は、講義で説明します。